

# 躍進

Y A K U S I N

No. 8

株式会社 加藤組社内報「躍進」

発行日／平成元年4月15日

発行／株式会社 加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18-6 TEL(0185)25-2235(代)

印刷／鈴木印刷所

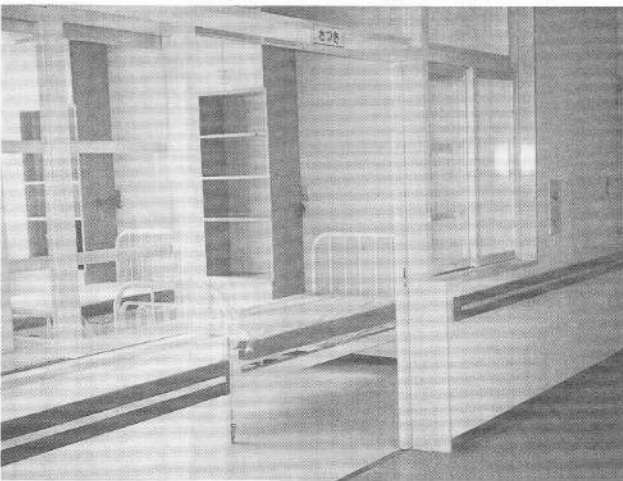
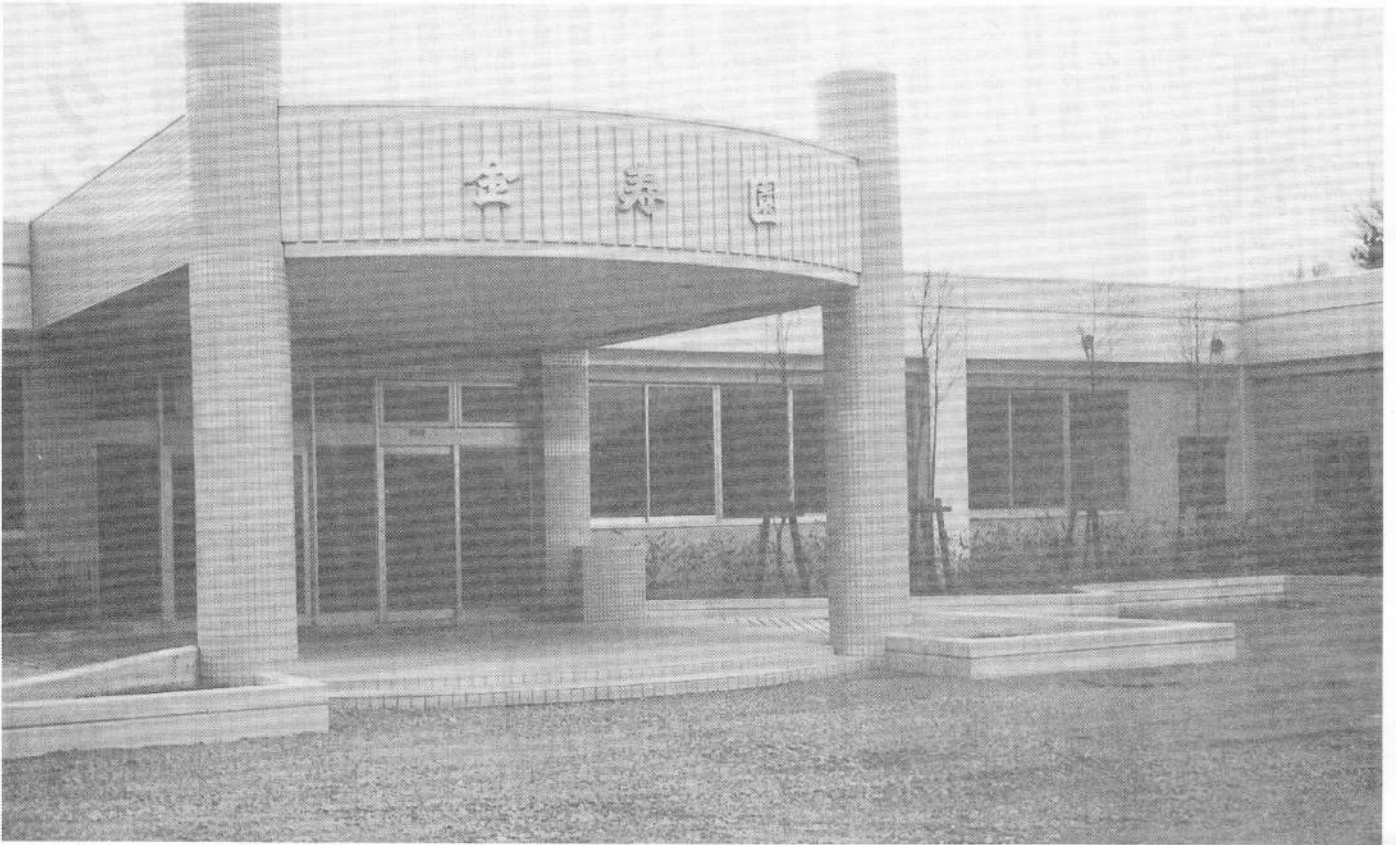
男鹿市船越字内子56-1 TEL (0185) 35-2058



株式会社 加藤組

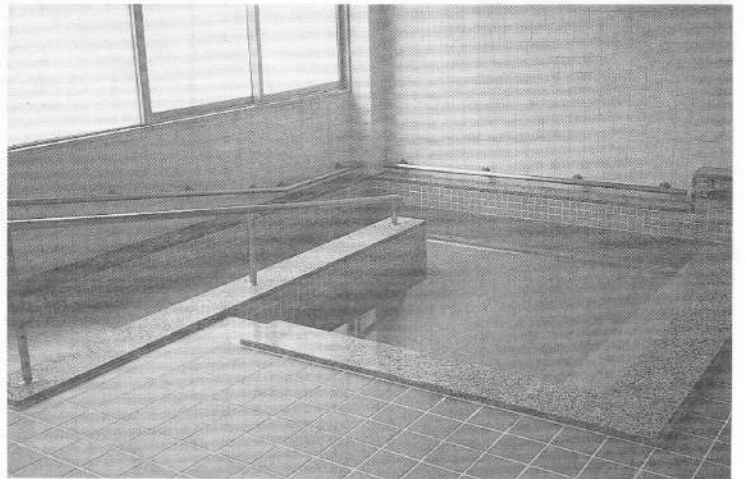
光飯商事株式会社 日本アスコン株式会社  
秋田ブロック工業株式会社 秋田建設運輸株式会社

## 寒風について見事に完成させた金寿園(特別養護老人ホーム)



居室の一部

スロープのある浴室



# ことばより「アクション」

## 今 新たな前進を

社長 加藤 義光



今年、当社が創業してから五十年という記念すべき年であります。

これまで何度か存亡の危機にあいながら、今日を迎えたことは、一にも二にも先代の努力によるものであります。

中国の歴史をみますと、数千年の間、生存競争をかけて、血みどろの戦いをしており、「生きて、生きて、生きて、そして最後には勝て」が良い教訓ではないでしょうか。

取引先各位のご愛顧に深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

が、当社の創業五十周年というのは、この一世紀の折返し点であり、正念場の後半に向うわけであります。出来上がった現在の基盤を単に維持するという消極的な態度では、今の建設業界の激しい競争に勝つことはできません。守りにまわった時は、すでに後退の始めですから、さらに前進する意欲をもち、積極的に努力しなければなりません。

今年、当社の基本方針として『ことばよりアクション』、今新たな前進を掲げました。物事を進める場合、検討し決断し、そして実行に移すわけですが、ともすれば検討と称して堂々めぐりをして思い悩み、不毛の論議ばかりでさっぱり実行に移さないことあります。考えることは年寄りには委せましょう。若者は行動です。口を開けば手は留守になります。行動することこそ若さの証明です。

### 平成元年度 基本方針



若さとは、単に年齢で云々するのではなく、やる気と健康な身体です。現場を預る者としては、まず行動することです。ですから、いつまでも若さを保ち、その特権として行動し現場に活力をつけてもらいたいと思っております。

ため、全社をあげて、今、新たな前進を始めたいと思っております。

### 新入社員紹介



高野 智美 (たかの ともみ)

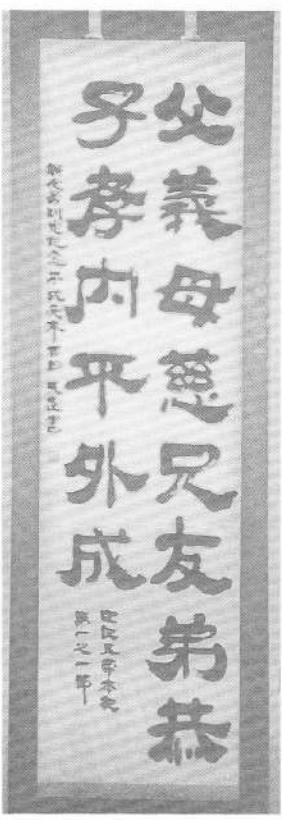
昭和45年4月10日生  
男鹿工業高校 電子科卒  
趣味 音楽観賞 写真  
配置 総務部情報管理室



目黒 真由美 (めくろ まゆみ)

昭和43年4月28日生  
秋田短期大学商経科卒  
趣味 手芸、卓球  
配置 総務部総務課

あると思います。何事にも一生懸命努力して高校の時のような甘えを捨て頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。



激動の昭和が終り、平成の年が始まりました。

平成の語源は、中国の古典のうち、書経大禹(大禹)と史記五帝本紀(五帝本紀)であるといわれており

右の写真は史記五帝本紀のなかの一節で、「父は義を、母は慈を、兄は友を、弟は恭を、子は孝を、内平らかに、外成

る」と読みます。国内外にも、天地にも平和が達成される——という願いをこめて定められました。



伊藤 吉 (いとう きち)

昭和3年4月28日生  
湯沢営林署定年退職後の再就職(当面、四時間勤務)  
配置 秋南営業所 次長

しかし時には挫折もすると思えます。でもそれを乗り越えあせらず、一步一步立派な社会人となるよう努力したいと思っております。皆様、ご指導よろしく願います。



江畑 芳克

昭和16年11月19日生

昭和48年9月入社

第27海光号艇長

「光陰矢の如し」のたとえどおり、アツという間に四回目の巳年を迎えました。

当社にお世話になってから十六年目になり、船舶部門では最古参の立場になりましたので、職場においては「和」を大切にして頑張りたいと思っております。



佐藤 庄栄

昭和28年4月17日生

昭和57年3月入社

整備副主任

歴史のなかで、ひとつの節目が今年、平成元年であるが平成の言葉とは違い、激動の社会のなか、不安な面もありますが、自分なりに、特に身体に十分気をつけて、社業と家業に一生懸命頑張るつもりです。



山下 忠雄

昭和28年5月16日生

昭和49年5月入社

土木課

生まれて、三回目の巳年を迎え、何となく心の引き締まりを感ずっています。

人生には、いろいろな節目があります。卒業、就職、結婚等々ですが、自分が生まれた干支の年もひとつの節目であり、転職にもなります。当社には、巳年生まれが五人おりますので、今年の抱負を聞いてみました。

# 巳年にかける



鈴木 登美男

昭和28年9月9日生

昭和54年9月入社

秋田建設運輸車両課

今年が巳年、しかも私が当社にお世話になってから丁度

りを感じております。入社して十五年となり、土木の中堅として現場をまわっていかねばなりません。

絶え間なく変化し、流れていく「時」のなかで、ひとつひとつの成果を積み重ね、大きな飛躍を目指していきたいと思っております。

それについても健康と安全第一ですので、皆さんのご指導をおねがいします。

十年目ですから、ひとつの節目として、決意も新たにして頑張る積りです。

毎日のように、交通事故の暗いニュースがありますが、運転業務についている私としては、なによりも交通安全を第一とし、絶対に事故を起こさないようにします。

そのためにも、家庭の円満と健康に注意していきたいと思っております。



伊藤 剛樹

昭和28年11月12日生

昭和51年4月入社

住宅相談室本部長

人生七十数年とすれば、三回目の巳年を迎えた今年はその折返し点ということもできます。

しかし、前半の大部分は、成長期、勉強期であって、学び、貯わえた能力を発揮するのは、まさにこれからです。今年を契機として、会社はもちろん、社会全体に少しでも貢献できるように、自分なりに目標を樹て、その達成に向けて、常に信念をもって行動していきたいと思っております。

## 干支とは

十干(甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸)と十二支(子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥)の組合せで、10と12の最小公倍数の60年に一回、同じ組合せの年になり、これを還暦といわれます。

今年(つひ)は、己巳の年で、来年(つひ)は、庚午の年になります。

## 社員登用



成田 義則

昭和29年1月21日生

昭和53年8月入社

土木部副主任



田中 健一

昭和33年6月23日生

昭和61年5月入社

土木部副主任



杉瀬 三男

昭和25年6月8日生

昭和53年10月入社

秋田建設運輸(株)車両係長

## 人事異動

(株)加藤組 63・12・30付

○沢田 正司

建設機械部本部長

○夏井 勉

建設機械部長

○鈴木 耕一

土木部次長

○佐藤 忠成

土木部土木課長

○伊藤 彦助

土木部土木主任

○佐藤 謙一

土木部土木主任

○安田 張幸

土木部建築主任

○佐藤 雅宜

土木部副主任

○原田 康文

土木部副主任

○佐々木敏雄

土木部戸賀出張所長兼務

○本川 良忠

戸賀出張所副主任兼務

○原田 博信

土木部建築係長兼務

○森元 次男

土木部建築主任兼務

○山下 忠雄

土木部勤務

○三浦 秋広

土木部勤務

○鈴木 頼男

土木部勤務

# 現場レポート

## 特別養護 老人ホーム 金寿園竣工

建築主任 安田 張 幸

建築場所

秋田市下新城笠岡字川向二八番地

敷地面積

四、七四六㎡

構造

鉄筋コンクリート造、平屋建

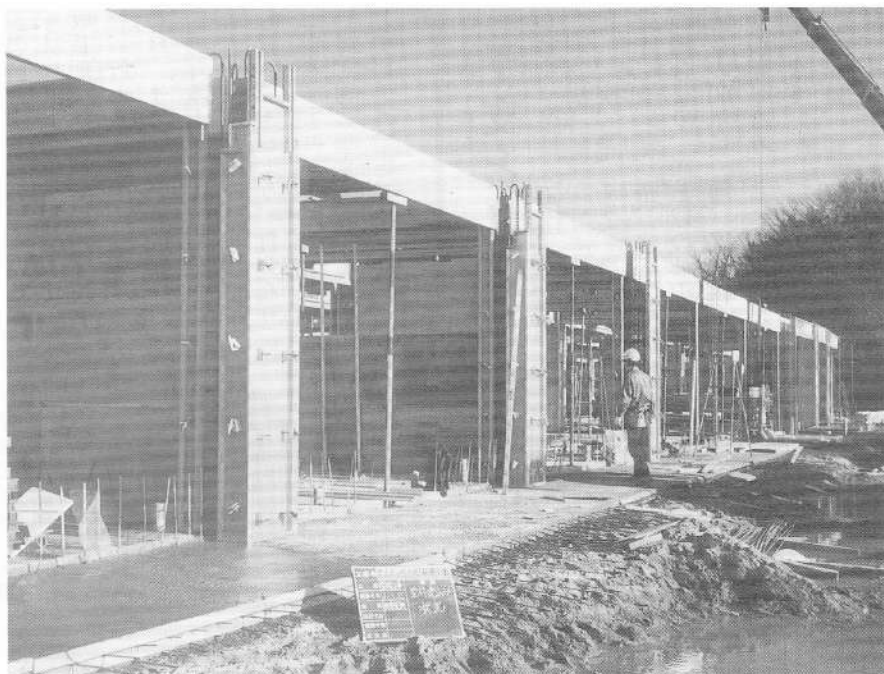
建築面積

二、〇七二㎡(延床面積一、八七六㎡)



老人ホームの施工は、冬期間の工事であり、工期も五ヶ月少々ということで突貫工事が予測され、当初大変な工事になると思いき、自分なりに気持ちひきしめ、工事にとりかかりました。

現場は私の他に栗原組の方から所長を入れ三名の派遣があり、計四名で工事施工に当たりました。工程的に冬期間の生コンクリート打設が行なわれ、特に躯体コンクリート打設の心配と打設後の養生に注意しました。しかし、それ以上の悩みといえば職人不足です。特に工程に影響の出る鉄筋・型枠大工の人員数で、当初の年内躯体打設完了予定が、全体の半分しかできず困りましたが、幸い、今年はその間に恵まれ、おくれながらも、



正月あけで、躯体を打設完了することができました。

しかし最終生コンクリート打設が、一月末ということで、内部仕上の期間が一ヶ月少々しかなく大変きびしい状態になってしまいました。現場は、はじめ、設備、電気工事、下請業者の協力によって内部工事にめどがつき、最も心配された屋上の防水工事も天候のおかげで無事に施工完了することができました。

今回の現場は、ほんとうに天候に恵まれたことに感謝しております。

外構、植栽工事も雪のない暖冬異変が幸いし、順調に作業ができました。今回の工事ですべて感じたことは、企業体での仕事には、コミュニケーションが必要で、お互い気をつかいますが、事前に十分な打合せをし、心が一つにして仕事に打ち込むことが、大切だと思いました。

### 現在実行中の主なる工事現場

●大湯村下水道整備

建物延面積 二四二㎡

管渠工事

工期 六月二十日

現場代理人 森元次男

●ニコニコ苑新築

建物延面積 二九〇〇㎡

工期 四月三十日

現場代理人 伊藤 満

●正門警務室新築

建物延面積 八一㎡

工期 七月三十一日

現場代理人 原田博信

●ラゲビー部員寮新築

建物延面積 一一二二㎡

工期 八月十五日

現場代理人 金子憲行

●東北自動車道(雄和)

コルゲートパイプ、ボックスカルパートほか

工期 八月三十日

現場代理人 田中健一

●東北自動車道(南外)

橋脚、橋台、排水工ほか

工期 十二月三十一日

現場代理人 伊藤彦助

●東北自動車道(協和南)

ボックスカルパートほか

工期 十二月三十一日

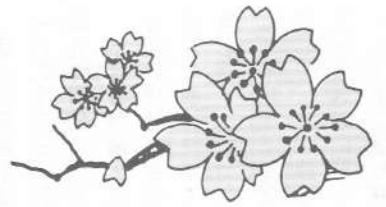
現場代理人 成田義則

●滝の下水道改良

函渠工、土工事

工期 九月二十日

現場代理人 荒木 聡



日本一

# 早咲き桜お目見え

## なまはげYOUモく輪村に

三月十五日開花をトップに現在北上中で、間もなく、秋田や男鹿にも到着するでしょう。

恵まれ、会場を訪れた約二千五百人の人々が早い春を満喫していました。

しかし、なまはげYOUモく輪村(村長・加藤義康副社長)では、三月五日に六分咲き、まさに日本一の開花で、沈滞気味の雪国の春に大きな活気を与え、男鹿市の観光にひと役を果たしました。

ちびっこラグビーは、おいばなラグビースクール対船越ラグビースポーツ少年団で熱戦が繰り上げられ、8対4でおいばなチームが勝ちました

が、勝敗よりも素質とファイトに恵まれた粒揃いのちびっこに接し、全国高校ラグビー大会に出場した男鹿工業の後継者は順調に育っていること

を感じました。このほか、もちつき大会、ちびっこ宝さがしや、男鹿市観光協会と姉妹協会である静岡県・南伊豆観光協会も出店し、南の香りを漂わせてくれました。



今年は気象台始まって以来の暖冬といわれ、県、市の除雪費がウン億円も余ったとか除雪業者の仕事が減ったとか道路の損耗が甚しいとか、悲喜交々でしたが、春の歩みは着実に進み、桜前線は高知の

毎回ユニークな企画で男鹿市民に期待され、楽しまれている、なまはげYOUモく輪村の今年のメイーンイベントは日本一の早咲き桜の実現でした。

これは、男鹿市農協花卉部有志の協力を得て、一カ月前からソメイヨシノ、ヤマザクラの枝を、二十四〜五度の温度に保ったピニールハウスで栽培していたもので、苦労の末、やっと六分咲きにこぎつけたもので、とにかく日本一早い観桜会を開くことができました。

この日は冷めたい風はあったものの薄日のさす天気にも



早咲き桜に負けずに美を競ったのが健康村娘「桜姫」コンテストでした。応募したのは八名で、数は少なかったのですが、健康ハツラツとした美人揃いで、審査員を悩ませました。

審査の結果、船川港門前の秋山美香さん(24歳)が選ばれ、副賞として男鹿牛の肉を大量に贈られました。この牛肉は、いくら食べてもゼイ肉がつかず、スリムさが保てるという逸品です。



船越ラグビー 8-4 なるば 観光協会と姉妹協会である静岡県・南伊豆観光協会も出店し、南の香りを漂わせてくれました。

(人事異動続き)

○梁田 耕次 営業部秋南営業所長兼務

○畠山 一彦 営業部営業主任

○鈴木 浩悦 総務部情報管理室主任

○高桑 広貴 総務部情報管理室副主任

○佐藤 司朗 総務部資材管理副主任

日本アスコン(株) 63.12.30付

○長谷川由造 男鹿工場長

○鈴木 義博 製造管理課主任

○三浦 一男 製造管理課主任

(株)加藤組 元4:1付

○佐藤 恭一 営業部長兼務

○梁田 耕次 総務部次長

○佐々木敏雄 第35海光号艇長

○小玉 照美 第30海光号艇長

○本川 良忠 第35海光号副艇長兼務

○船木 光一 第36海光号艇長

○江畑 芳克 第35海光号機械副主任

○西方 鍊悦 第26海光丸船長兼務

第25海光丸船長兼務

# SPORTS

さらにさらに難しい。  
しかし「綱引きの加藤組」の真価が問われるのはこれからである。綱引きの王者復活を期す。

## 第8回 全県綱引大会 惜敗記

加藤組綱引クラブ

部長 鈴木 耕 一

たかが綱引き、されど綱引き……。電光石火の如く波紋を呼んだTUG OF WAR。平成元年一月、県立体育館は今年もまた興奮のつぼと化した。

公式の国際ルールが日本に上陸し、はや九年の歳月が流れた。今やダイナミックコミユニケーションTUG OF WARの人気は日本全土に定着した。

と社業の発展とは無関係ではないので、全社をあげて一本の綱となつて応援していかねければなりません。

回、第三位二回と常に上位入賞を果たし、昨年まではベストスリーを割ったことがなかったのである。この間、83年、84年のクラブチャンピオンの部で二年連続全国制覇を達成した実績もある。

加藤組といえば「綱引き」、

「綱引き」といえば加藤組。

いわゆるTUG OF WARの英雄として全県に君臨し、その歩みは、まさにゴールデンブリッジに続く道程だったのだ。しかし、王者もいつの日か敗れる時が来るといふ。チャンピオンになるのは比較的たやすいが、それを防衛し続けるのは至難の業である。八人が一つの器になつてはじめて勝てる。誰かが少しでも力を

抜けば、強豪チームは一瞬のその隙をも見のがさない。力」とは体力、智力、そしてそれらの総合力といえよう。それが充実していれば必勝の道をたどれる。今大会の我がチームは直前まで本業の繁忙に追われ、力のリズムに乗れなかった。結局、準々決勝で、今年度優勝の栄冠に輝いた三関大綱引大会チームに敗北の憂き目を見た。過去の栄光があまりにもまぶしい存在だった我がチームだけにそのショックは大きかった。時は流れ流れて、次々にニュースターの誕生を歴史に刻みこむ。玉簾

不測の精神に徹しきれるなら、来るであろう。喝、勝利の女神は必ず再度やって



心配そうに見守るお孫さん

## 王者復活を目指して 前進する加藤組チーム



第八回県綱引選手権大会は一月二十二日、秋田市八橋の県立体育館で行われた。前年度優勝の加藤組チームは連続優勝を目指して出場したが、準々決勝で惜敗の憂き目を見てしまった。王者になることは難しい。そして、この座を占め続けることはさらに難しく、一度失った王者に振り返りすることは、

## 第4回加藤杯争奪ゲートボール大会

第四回を数えた加藤杯争奪ゲートボール大会は、男鹿市内の精鋭五十チームが参加して一月二十四日、男鹿海洋センター体育館において開会し、予選リーグ、決勝トーナメントまで、約二十日間にわたって熱戦が繰り広げられた。

この大会は、高度な技術の追求もしますが、なんとといって男鹿市在住の愛好者が一堂に集い、加藤杯のもとに親善を

### 男鹿GBクラブ 初優勝を飾る

深めるのが何よりの意義で、今回の大会も十分その目的が達成されました。

二月十四日に行われた決勝戦では、強豪の脇本郷Aチームを破った男鹿GBクラブチームが念願の初優勝を飾りました。

中高年齢者に愛好者の多いゲートボール大会にあつて、男鹿GBクラブは比較的若い選手が多く、また、同一職場というチームワークの良さが抜群で、早くから優勝候補の本命といわれていました。

第三位は船越Bチーム、第四位は七福久会チームでした。

# ゼロ災職場の

# 確立を目指して

安全衛生委員長 夏井 勉



私たちは、この事故内容を貴重な教訓として、今後の無災害を目指さなければなりません。

当社では、毎年、安全重点目標を定めて、安全活動の指針としておりますが、今年度の目標は次のとおりです。

## 一、墜落災害、重機災害の絶滅を図ろう

墜落災害、重機災害、土砂崩壊災害は、建設業における三大災害といわれており、特に、墜落災害と重機災害は全国的にも多発し、全災害の六割以上も占めております。

建築現場はもちろん、その他の工事現場でも墜落の危険は常につきまわっております。

今年一月、下請業者の作業員が建築現場で転落するという事故が発生してしまいました。

下請業者の作業員といっても当社の支配下の事故であり、

ものです。確かに、重機が大量の土砂を削る、掘る、移動させる状況を見れば心が躍るような気持ちになります。

土砂に対する絶大な力で、一緒に働いている作業員にぶつけられたら、ひとたまりもありません。重機作業の事故防止の要点は、重機の安定と能力相応の作業、そして人力作業との連携です。重機の騒音に負けないように大きな声と動作で明確に合図し、お互いに確認し合うことに気を付けて下さい。

## 一、下請協力業者への安全教育を徹底しよう

当社の受注工事は、最近特に多岐にわたっており、職種によっては、どうしても下請業者の協力を得なければならぬようになってきました。

当社の安全対策、指導、行動は的確ですが、下請業者の場合、ともすれば劣ることがあり、また、同じ安全行動でも方法が違うため相互の連携が不十分で、事故につながりやすい状態にあります。

下請業者に対しては、元請の責任として、厳しく、丁寧に安全教育を行って、両者が仕事上も安全上も協調して仕事の成果を高めていかなければなりません。

下請業者への安全教育に当たっては、当社の従業員が模範になるような安全行動こそその基本になることを忘れて下さい。

## こんにちは 赤ちゃん

社員にかわいい赤ちゃんが生まれました。これから、当社も男鹿市も背負って立つ人材に育つよう、皆さんで、やさしく見守ってあげましょう。



土木部土木主任

荒木 聡さんの長女

あきひ 暁姫ちゃん

昭和63年4月9日生

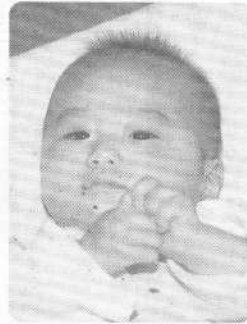


総務部総務係長

伊東俊博さんの長男

ようすけ 陽介ちゃん

昭和63年8月20日生



土木部土木課長

佐藤忠成さんの次男

まさゆき 雅幸ちゃん

昭和63年11月17日生



土木部土木係長

伊勢谷 寿さんの長女

なるみ 成美ちゃん

平成元年1月13日生



建設機械部副主任

薄田正幸さんの次女

かおり 香ちゃん

平成元年2月23日生



土木部土木副主任

田中健一さんの次女

なおみ 直美ちゃん

(お姉ちゃんと一緒に) 平成元年3月1日生

## 秋田労働基準監督署の 労災防止重点指導事業場 指定解除される

当社は昨年四月以来、労働災害防止重点指導事業場に指定されていましたが、当社の安全活動、成果が認められ、三月末日をもって、指定が解除されました。

今後とも油断することなく、全員が一丸となって、ゼロ災職場を確立しましょう。

## 安全衛生委員会から

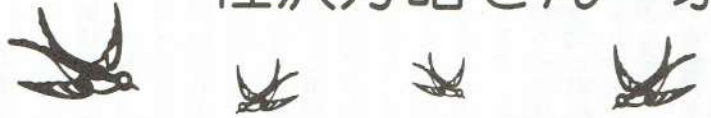
# 加藤組のあゆみ⑧

## 建築(その2)

# フアミリー紹介

日本アスコン製造管理課(41歳)

## 佐沢芳昭さん一家



妻 ミサ子さん(38歳)  
長男 英一くん(14歳)  
次男 翼くん(7歳)  
男鹿東中学校 三年  
脇本第一小学校 二年

佐沢芳昭さんは、男鹿中の学校を卒業してから約十年は建設会社など数社を転々とした時代もありましたが、昭和四十八年に当社に就職し、それを契機に結婚してからは、水を得た魚のように自らの才能を発揮し頑張っています。

この間、昭和五十一年には一般表彰、五十三年には特別表彰を受け、さらに六十年には出勤率良好の表彰も受けましたが、これには奥さんの内助の功が大きく、ともすれば弱気になりがちなご主人を支え、励まして、当社の中堅社員としての地位を確固なものとしてきました。

長男の英一君は、もう父親の身長を越え、男鹿東中サッカー部のエースとして活躍しています。

長い間  
一苦勞様でした

定年退職 63・12・31付

- 沢木 芳雄さん
- 清水 和夫さん
- 小山田兼雄さん
- 大野 広作さん

自己都合による退職

- 白岩 勝さん 63・12・31付
- 武田 透さん 元・1・20付
- 本山隆春さん 元・2・18付

昭和五十年代からは、建築工事の受注も増えてきたのに伴い、五十五年には建築課が発足し、社員も私を含めて、六名の組織になりました。

その年に受注した脇本第二小学校の改築工事は鉄筋コンクリート造りで、当社としては初めての大規模工事でもあり、今後の建築工事を進めて行くためには、絶対に失敗はゆるされず、同業者からも、当社が、建築施工業者として、一本立が出来るかどうか注目

安全確保はもとより、協力業者の選定にも全社をあげて、慎重に進められました。

安全面では、旧校舎の一部を解体し授業をさせながらの改築工事のために、特に生徒の登下校の安全を確保することに全力を注ぎ作業の進行をはかったことにより、工事の第一目標でもあった無災害も達成し、工期内に完成、引渡しすることができ、出来栄えについても設計、監理者の小

畑勇建築設計事務所からも、立派な建物であるとほめられたものでした。その一言によって社員にも技術者としての自信がついたと思っております。

次の年には、住宅公社発注のシーライトマンション、秋田県発注の県営御野場団地、建設省発注の土崎国道維持出張所、脇本の菅原神社、脇本第二小学校屋内運動場など次々に受注し、受注総額が、約九億円で過去最高額になり、

### 編集後記

今年、まれにみる暖冬で降雪が少なく、真山も寒風山も白くなったのは数えるほどしかありませんでした。

こういう冬であっても、やはり本番の春ともなれば、気分は爽快になります。

昨年の夏以降、当社の受注が増加し、現場は多忙を極めました。ご苦勞様でした。

平成元年度を迎え、気分を一新し、また新たな仕事に向って前進しましょう。

仕事で頑張るためにも、社内の融和が大切です。社内報の「躍進」が家族も含めた皆さんと会社との連携を深めるために役立てば幸いです。

社内報の編集に対して、皆さんのご協力をお願いします。

